東海岸の救助を急げ
恒久的に組織的に
釜石五千の罹災者に寒氣襲來
復舊に、數十年困難か

（釜石電話）地震と津波と火事で生地獄と化した釜石町では五日朝からみぞれが降り出し加ふるに寒氣嚴しく五千の罹災者達は饑餓と寒氣とにさいなまれ見るも無慘な狀態を呈し無情な天を恨んでゐる花卷在鄕軍人分會十五名同役場吏員三名膽澤郡眞城在鄕軍人分會四名その他各方面から救護隊が續々來町これら罹災民の救助に努めてゐる、又東北帝大救護班富永班長以下醫員看護婦十餘名東京府東京市兩救護團二十數名は四日夕來町して活躍してゐる救恤品も四日から輕鐵トラックで搬入されてゐるが何せ被害地が廣汎に亘つてゐるため食糧の如きも僅かにその日その日だけの狀況にて饑餓を免かれしめてゐる狀態で何れも丸裸で燒け出された彼等罹災者達の窮狀はその極に達してゐる、旅役間もない小野寺町長も丸裸で燒け出されたが自家のことはふり向きもせず罹災民の救護に奔走してゐる、今回の罹災地は場所柄只越海岸通りの目拔きの大商店が全滅したので釜石町の更生困難にして復舊に於ても向ふ何十年間かとみられてゐる

熱烈な救援運動
全機能を發揮して
物資の配給順調
きのふも縣廳全員登廳

五日の縣廳は日曜日にも拘はらず全員登廳、石黑知事は陸軍大臣代理谷少將、丹羽社會局長官、松岡秋田縣知事代理等震害狀況視察のため來盛した中央部及び隣縣からの慰問者との應接にいとまもなく警察部に設けられた非常警備司令部は被害地移動本部からの情報接受と救護指令の令達に一層の緊張を帶び午後三時十三分著で仙臺市から臨縣の前田內務部長は宮城縣廳に於て大金侍從より有難き聖旨と御內帑金を拜したる旨石黑知事に報告し洪大無邊の聖慮に答へ奉る傳達方法に關し凝議を續けた。この間にも各府縣知事、各種團体、中央機關よりひつきりなしに電信電話を以て慰問を兼て確報の照會あり一方配給本部で不足を嘆いてゐた救護品輸送トラックも青森縣より十臺の應援あり縣下から非常徵發した七十餘臺はこれに勢を得て全機能を發揮しつゝあり道路の復舊と相待つて物資の配給は漸く順調に進捗して居り縣內各課は徹宵警戒を續けた尙五日の主なる慰問者は左の通りであつた

松岡秋田縣學務部長、長瀨福島縣社會課長、大原福島縣社會事業協會副會長、小林日赤囑託、伊藤農林省事務官、尾瀨京都府囑、盛生新潟縣技師、緒方消防協會理事、內山京都水產技師、中尾農林事務官、瀨川上院議員

陸軍當局は
救護に萬全の努力
來縣した谷少將談

陸軍省軍事調査委員長谷壽夫少將は井出少佐、大久保大尉を從へ陸軍大臣代理として本縣震災慰問視察のため五日午前十一時十三分盛岡驛着列車にて來盛直ちに縣廳內臨時衞戍司令部に入り市內旅團長より情況報告を受け後市內旅團長以下各隊長、幕僚將校を集め陸相訓辭を傳達したがそれより記者團と會見左の如く語つた

陸軍大臣代理として申上げます今回の震災には衷心より御同情に耐へぬ次第です。又縣民各位並に縣各機關の御活動には眞に敬服致して居ります。陸軍當局と致しましては救護につき出來るだけの能力を惜しまずとりあへず衞戍各隊地方陸軍官衙を督勵致し縣御當局と密接な連絡を以て兵を派遣し引き續き物資輸送配布救護班の派遣警備等萬全を期する樣命じて居りますが本日私參り尙知事閣下と御協議の上盡力する考へです私は尙約一週間御當地に滯在の上災害現地の視察も致す考へですが何卒貴社に於かれても特別の御援護を御願ひ申します

尙谷少將は高與旅館に宿泊してゐる

谷少將動靜

陸軍省谷少將は五日午後四時盛岡驛發縣社會課齋藤屬を案內とし宮古から縣內被害地情況視察の途にのぼつた日程は宮古についてから軍艦霧島に搭乘明朝宮古港出發山田、大槌、鵜住居を視察して釜石に入港、一泊、七日釜石發氣仙郡一帶を視察大船渡港入港上陸して一泊

救恤品の
無料取扱
四日から二ヶ月

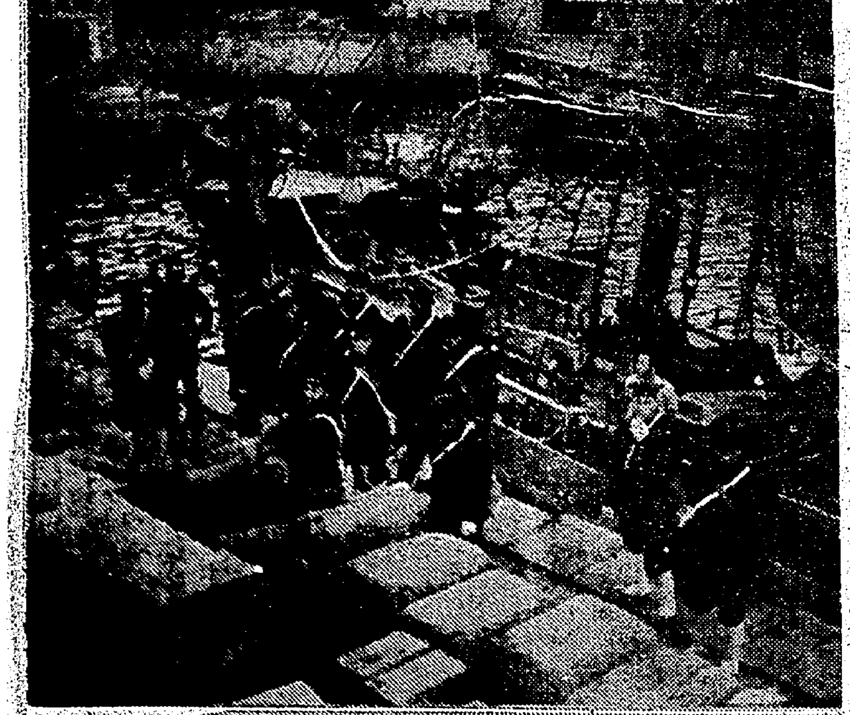
三陸海嘯の被害地に向け輸送する運輸物資中寄贈救恤品は四日から一ヶ月間無料取扱ひ復舊建築材料は四日より二ヶ月間五割減とし取扱ひ指定驛は左の通りである

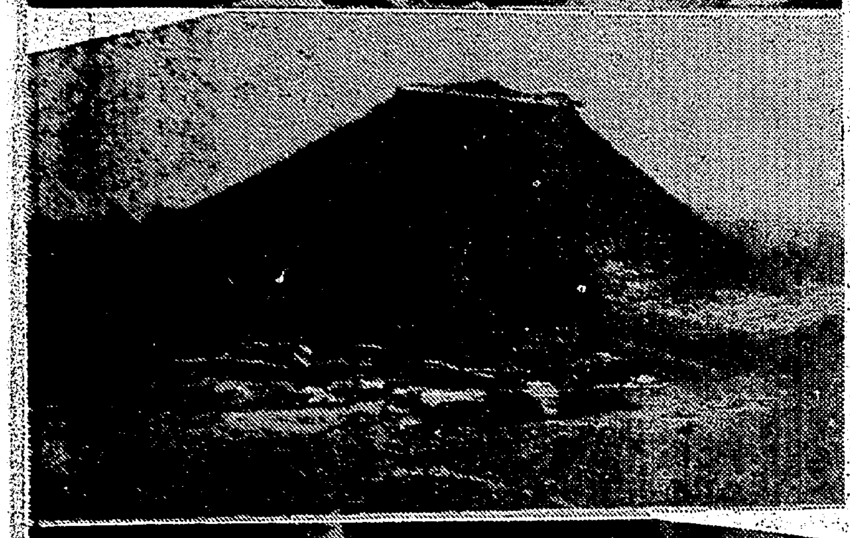
仙臺、盛岡、塩竈、石卷、氣仙、一關、千廐、陸中八木、平津戸、湊、種市、久慈各驛、遠野、仙人峠、三陸汽船各荷取扱所

縣外各地から
慰問の藥品

岩手縣東海岸に於ける地震、海嘯が一度傳はるや縣外各地から陸續として慰問品が送附されてゐるが縣衞生課へは東京の高田製藥會社大木合名會社等より既に六梱の風邪藥傷藥外科藥その他送られ五日は秋田縣衞生課から井戸消毒藥

萬クロール石鹼千百十本が到著した尙瀧澤村篠木青年團からも同樣寄贈があつた





海軍の救援（寫眞說明）大湊へ入港した横須賀鎭守府救援隊と食糧品と釜石鑛山鐵道附近の罹災民と野田村の慘害。

青森からトラック
十臺應援

青森縣から五日救援トラック十臺を縣に輸送して來たので內二臺は午前十時宮古に向け八臺は縣配給本部直屬として配給に活動することになつた

軍當局の
救恤品
將校以下第一線に活躍

衞戍騎兵第三旅團にては折柄初年兵教育のため將校以下一同非常に急がしい時期であるが災害發生以來將校廿一名以下左の如く計百七十一名の兵力を第一線に派遣し尙騎兵聯隊工八留守隊を以て兵站事務に任じ大活動を行ひ且つ師團命令に基き左表の如き物資を救恤品として輸送配給した

△將校二一△軍醫二△下士官三六△看護長四△計手一△兵九九△看護兵六△騎二△計一七一

▲旅團直接差出衣糧品　△外套二〇四〇△毛布一五六〇△襦袢一四〇〇△袴下一三〇〇△天幕九一△乾麺麭一六五二包△鑵詰二五二〇△器具土工具四〇組

他に架橋器材々料木工器材

政府米一千石
一關から發送

岩手縣東海岸罹災民へ拂下げられる政府拂下げ米一千石は六日午前九時一關驛着それより一關から各災害地へ發送されることになつた

市內各團体は
總動員で奮鬪

愛國婦人會盛岡支部では三日以來慰問品募集を開始してゐたが四日午後までに集つたものは大きなこも包み十一個トラックで二臺に上り中には蕃類が主で米味噌醬油等の食料も交つてゐる同支部では早速縣に托して被害地へ發送すると

×

盛岡市山岸青年團及び同婦人會では聯合して四日宮古、釜石方面罹災民救援金品の募集をなし衣類三千點同四十圓を直ちに罹災地へ發送した

×

市內各キリスト教團体では聯合で國際的に通知を發し義捐金募集を開始する傍ら市內中ノ橋盛岡銀行前と肴町藤島呉服店前に慈善鍋を設け同情金を集めてゐる

×

盛岡婦人會男子青年團女子青年團では協力して市內各小學校を中心に仁王、櫻城、城南、厨川、杜陵、高等小學校大慈寺仙北町、米內、山岸の十區に別れて市內全般に亘つて被害地慰問品の募集に奔走してゐるが現在市役所に集つてゐるのは中一區の二十二ばかりでその他九ヶ所よりも續々集る模樣である

×

市內各小學校では今度の被害で親を失ひ家は流れ學校にも行けず寒さにふるへてゐる氣の毒な罹災地の小學兒童にいたく同情し生徒が自分達の使ひ古しの學用品その他を持ち寄り本社に托して發送することになつてゐる

×

盛岡仁王小學校生よりなる盛岡聯盟少年團員は內丸公會堂前大通りの二丁目その他の街頭に立ち「三陸地方の津波に寄附して下さい」と可愛い聲を張り上げて道行く人の同情をひいてゐる尙三日以來集つた金高はまだ二十圓餘だが全部集めて宮古釜石方面の海洋少年團宛に送ると

動員青年團
手分け區處

東海岸震災被害地の交通機關整備小屋掛等に努力の不足を來しつゝある現狀なので縣では五日市町村青年團員の義務心に訴え總動員することゝなりその區處を左の通り決定した尙動員した團員は七日前後までには被害地に到着の見込みである

◇盛町地方　氣仙東磐井西磐井江刺膽澤各郡町村青年團
◇宮古山田町方面　下閉伊崎山山口刈屋川井門馬以南各村青年團員
◇小本村地方　岩手郡簗川村玉山瀧澤西山以南各町村盛岡市岩手郡川口巻堀澁民田頭松尾以北町村下閉伊郡田老有芸大川以北各町村九戸郡葛巻江刈村
◇久慈町地方　二戸郡各町村九戸郡各町村葛巻江刈兩村除く

動員實施のため五日午前十時各市町村に學務部長名で通牒を發した

救護品配給調
（三月五日午後三時現在）

	釜石方面	宮古方面	盛方面	久慈方面	岩泉方面	計
白米	二八六俵	二四〇	九三	五〇	三七三	一、〇四二
蔬菜	八四〇貫					八四〇
味噌	一四九樽	三	四三	三	七六	一三三
漬物	六九同	五〇	四二	三三	六	一九七
乾麺麭	一、〇〇〇食	一、六〇〇	一、〇三〇	七〇〇	六〇〇	三、九三〇
罐詰	二三箱	六	八	—	—	二六
キャラメル	一、五〇〇個	一、四〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	五、〇〇〇
毛布	一四七枚	一、一七六	八〇六	四一七	一五〇	五、五〇六
寢具	七二一枚	—	七四三	—	七三	一、五五七
衣類	三、七二五點	四、八六五	三、六九九	一、〇二五	一、〇九〇	一三、六九〇
外套	四〇〇枚	一、〇〇五	三五〇	二〇〇	五〇	一、八二〇
靴下	一、一六八足	八四五	七三九	三三三	三四八	三、三九二
足袋	一、一一〇足	九八六	七四六	二七三	二八四	三、四〇〇
下駄	二、二〇〇足	二、二〇〇	一、三〇〇	九〇〇	九〇〇	七、五〇〇
草履	一、六〇〇足	一、六〇〇	九〇〇	七〇〇	七〇〇	五、五〇〇
天幕	二六二張	二六〇	一二〇	一三〇	一九一	九五三
筵	一、五〇〇枚	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	七、〇〇〇
鍋	一五〇個	一五〇	一〇〇	五〇	五〇	九〇〇
バケツ	六八個	六八	一九二	六六	六六	九六〇
湯沸	三〇〇個	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一、〇〇〇
提灯	六三五個	六三五	四二五	三三	三三	一、八九七
マッチ	三、五七〇	三、二五〇	一、八九〇	一、三〇〇	一、三三一	一一、三四一
ローソク	一〇、一七二	七、九四七	八、五四七	三、一三六	三、三八六	三三、一八八
木炭	八、四〇六俵					八、四〇六

應急藥を配給
井戸水を消毒

罹災現地における救護班の活動は直接負傷者の救助診療に從事する一方一般罹災民に對し胃腸藥、解熱劑、凍傷劑その他を配給して應急處置に用ひさせることゝし又罹災のため母乳の分泌が止まつた氣の毒な母を失つた幼兒のため母乳代用人工榮養品を配給し又罹災後における疾患の豫防その他保健上考慮の結果飲料井戸の浚渫井戸の消毒等を實行し大活動を以て罹災民の感謝をうけてゐるが右救護班は左の如し

▲他府縣より派遣された救護班

◇宮古署下
△第八師團救護班（四日田老村に到着）一班將校一軍醫一看護長一下士計手各一看護兵六
△新潟縣赤十字救護班（五日山田町到着）一班醫師一看護婦三
△横濱市救護班（五日田老村に到着）一班醫師一看護婦三

◇釜石署下
△東京府濟生會救護班（四日釜石町到着）班長一醫師三看護婦三
△東京市赤十字救護班（同上）醫師二技手三看護婦四
△東京市救護班（同上）二班醫師三事務員二看護婦六
△宮城縣東北大學救護班（三日唐丹村到着）二班一行十三名

▲本縣救護班

◇久慈署下
△二戸郡醫師會（種市中野）醫師一名看護婦三
△岩手病院（侍濱、夏井、久慈）醫師一看護婦三
△赤十字支部（種市）醫師一事務員一看護婦三

◇岩泉署下
△岩手病院（田野畑）醫師二看護婦六
△赤十字支部（小本）醫師一事務員一看護婦三
△岩手郡醫師會（普代）醫師一看護婦二

◇宮古署下
△盛岡市醫師會（宮古、重茂、山田、船越）醫師二看護婦六
△赤十字支部（山田）醫師一事務員一看護婦三
△衞生課（田老）醫師二藥劑師二看護婦一
△岩手病院（田老）醫師一事務員一看護婦三

◇釜石署下
△花卷共立病院（唐丹）醫師一藥劑師一看護婦三
△稗貫郡醫師會（唐丹）醫師二看護婦六
△遠野病院（鵜住居）醫師二看護婦六
△赤十字支部（釜石）醫師一事務員一看護婦三

◇盛署下
△和賀郡醫師會（吉濱、越喜來、綾里）醫師三看護婦六
△西磐醫師會（赤崎、大船渡、盛、田末崎）醫師三助手二看護婦六
△東磐醫師會（高田米崎）醫師一看護婦三
△一關實費診療所（移動）醫師二看護婦二
△瀬衣（同上）同上）醫師一齒科醫師一助手四
計醫師三〇齒科醫一藥劑師三助手五看護婦七一

工兵隊活躍
復舊に
道路橋電話

衞戍司令部より派遣された小柏大尉以下四〇名の工兵隊は四日午後九時鵜住居に到着し小松平松兩大尉部隊と協力直ちに同村大槌町間道路橋梁電線の復舊工事に着手した八日完成の見込み

鋭意架橋工事

盛岡工兵では災害復舊のため四日小柏大尉指揮四十名、佐藤少尉指揮十三名の二復舊班を出して鋭意復舊工事に當つてゐるが宮古へ向つた佐藤少尉の一隊は宮古附近は河川氾濫に加へて材料ないためその工事をとりやめ海岸を急遽南下して[illegible]村に到着架橋を鋭意架設中である小柏大尉指揮の一隊は釜石より電話を架設しつゝ北上し五日は安家村に到着し大槌北方を流れる小鎚川外二ケ所に架橋中である安家大槌附近には材料ないため、釜石方面よりその供給をうけて鋭意架橋中である

野田村の
救濟狀況

（久慈電話）九戸郡野田村では四日緊急村會を開き罹災者一戸に對し毎日白米二升宛配給及び一戸に付二圓外家族二名以上は一人に付五十錢宛の割合で給與することゝしたが同村の救助を要する罹災者は五十九名で細民階級が大部分を占めて居る

×

九戸郡水產會では七日午前九時より久慈町に緊急總代會を開き罹災對策を講ずるが差當り問題となつてゐるのは漁船漁具の準備で船材の共同購入等必要とされて居る、又かねて縣案中の各漁業組合地區に水產倉庫設置の件も議題となる模樣である

×

久慈土木管區管內の震災損害は道路二萬三千三百圓橋梁二萬圓港灣九萬三千八百圓計二十萬七千圓に上る見込み

岩手輕鐵
無賃乘車の奉仕

（花卷電話）岩手輕鐵では沿岸各地の震火災被害者救護のため社線各驛より釜石遠野へのものに對し無賃乘車せしめて相當の効果を擧げたが本六日からは縣又は警察署長に於て必要と認め證明したものに限り當分の間無賃乘車の取扱ひをすることになつた

嚴島釜石入港

（釜石支局發）横須賀鎭守府より△毛布六千五百枚△水兵服二萬着△着類一萬着△罐詰六千キロ△ビスケット六千キロの救恤品を積載した軍艦嚴島は五日午前八時釜石に入港した

各鄕軍救恤品
罹災地へ急送

縣下沼宮內、日詰、一關、岩谷堂、盛岡、黑澤尻、一戸、花卷、鱒澤、葛卷、千廐、遠野、竹駒、山目、中里、安家、小友各在鄕軍人分會では在鄕軍人盛岡支部の命令により味噌、米、衣類等の救恤品募集を行ひ、夫々トラック其他を利用して罹災地に急送してゐる多い所では衣類三四千或は一萬點以上と集めた分會が多數ある、尙一關分會では東京仙臺方面より輸送された慰問品を夫々整理の上釜石への輸送を行つてゐる

暴風警報
三月五日正午發

寒氣嚴しく風雪強かるべし本縣海陸を警戒す低氣壓は鹿島灘にありて七五六ミリにして東北東に進行す

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。